



第26回 信念会

元気が出る

1月7日にヒルトン名古屋にて第26回元気が出る信念会が開催されました。近年プラスチックを巡る動きはゴミ問題をはじめ逆風気味ですが、こうした流れをチャンスへと変えプラスチック業界と一緒に盛り上げていきましょう!! 本年も元気いっぱいの森松を何卒よろしくお願い致します!!

やり方の変化

森 直樹(代表取締役社長)



5歳の私の息子たち(双子です)に、昨年のクリスマスに自転車をプレゼントしました。当然補助輪付きで、二人は楽しく公園で駆け回っていました。新年が明けた連休中のある日、近くの河川敷に自転車で遊びに行った際、「補助輪を外す!」と次男が言い出し、長男もそれに合わせて補助輪無しにチャレンジすることに。最初の数回こそ数メートルも進まないうちに倒れていましたが、5分後...息子たちは立派に自転車を漕いでいました。本人たちは無邪気にどんどん遠くへ進んでいきますが、驚いたのは私達夫婦です。私達の世代は、補助輪無しで自転車が乗れるようになるまで、練習を始めてから何日間も、日が暮れるまで、傷だらけになって感覚を体に覚え込ませた後に、ようやく習得したものです。この差はどこに?というのは、彼らは2歳半ばかり使っていたランニングバイクにあります。ランニングバイクとはペダルとブレーキのない自転車で、名前の通り自分の足で地面を蹴って進み、自分の足と地面との摩擦でブレーキをかけます。これを2年以上使用した結果、自転車に乗る際のポイントである『進ませながらバランスをとる』という感覚を体得していったのです。当初から自転車に乗る前の練習になる、というランニングバイクのその効果は聞いていましたが、まさかここまで有効とは思いませんでした(もちろん親の負担も激減です)。今回はたまたま自転車に乗る練習ということ为例に挙げましたが、このような形で昔は身に付けるまでお金や時間を投資しなくては達成できなかったことも、新しい道具の開発等で環境が変わった結果、それがどんどん低コストになったり、また時間の効率アップが出来ることが有るでしょう。時間を掛けるべき部分と、そうでない部分は隙間時間でこんな方法で出来る、といった別な方法も使うという発想の転換で、成長の機会はより広がると感じた出来事でした。

※写真はランニングバイクに乗る息子たちです。(2年前)



ボヘミアン・ラブソディ

村田 恒夫（総務部）



先日、映画『ボヘミアン・ラブソディ』（「伝説のチャンピオン」「ウィ・ウィル・ロック・ユー」といった数々の名曲で知られる伝説のロックバンド、クイーンのボーカル、フレディ・マーキュリーの華やかな成功と波乱万丈の人生、魂に響く不朽の名曲と共に贈る感動の物語）を観てきました。映画としての内容はいまいちでしたが、評判通りクライマックスのライブエイドのシーンは泣ける程最高でした。最近、クイーンの曲を聴くことはありませんでしたが、さすがにこの日は、家に帰ってからYouTubeでクイーンのライブ映像を検索し何度も観てしまいました。私がクイーンを知ったのは42年前（高校2年）ラジオで「キラー・クイーン」を聞いたのがきっかけでした。即、「キラー・クイーン」が収録されているアルバム（クイーンの3枚目のアルバムとなる「シアー・ハート・アタック」）をレコード店に買いに行ったのを覚えています。この頃、クイーンが日本ツアーで愛知県体育館でもライブを行うことが決定した時には、最高に幸せな気分になりました（大物ロックグループが来日しても、東京、大阪ではライブをやっても名古屋は飛ばされることが多かった為）。当時は、音楽情報を入手するには、インターネットはなく音楽情報誌（音楽専科・ミュージックライフ・レコパル）を購入し、ライブ情報、アルバム新作情報、ラジオ（FM）でのロックアルバム特集情報を入手しました。私の高校時代でのアルバム（LP）は2,500円、ライブチケットは3,000円前後でした。お小遣いだけでは足りず、学校へ行く前に新聞配達（朝刊）、学校帰りに中日球場（試合がある日のみ）でアルバイトをしていました。稼いだお金は、全て、アルバム（LP）購入代、コンサートチケット代、カセットテープ代等に消えていきました。クイーン以外にも、レッド・ツェッペリン、ディープパープル、フリーウッドマック、ボブマーリー、イエス、ビートルズ他毎日、何時間も聴いていました。高校時代から42年経って、クイーンのライブ映像『ボヘミアン・ラブソディ』を妻と観て感動することが出来たのと同時に、高校時代、妻との初めてのデートで観た映画もレッド・ツェッペリンのライブ映像『レッド・ツェッペリン狂熱のライブ』だったのを思い出しました。

凡事徹底

伊東 義弥（特販部）



森松では、毎年3回の長期休暇に課題図書が選出され、その本を読んで読書感想文を書きます。この間の年末年始の長期休暇で選出された課題図書は、イエローハットの創始者である鍵山秀三郎氏の講演会を書き起こした「凡事徹底」でした。凡事徹底の意味を調べてみると「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと、または、当たり前のことを極めて他人の追随を許さないことなどを意味する四字熟語。」となっております。文字にすると一見簡単そうに見えますね。しかしこれを実行できる人は少ないと思います。仕事に対してもプライベートに関しても、何でもないような当たり前と思われることを徹底して行う難しさを日々実感しております。私は出張族のため、休日は家族サービスを必ずすると自分で決めており、家族にも言っております。しかし、実際に出張から帰った翌日などは、眠たかったり疲れていたりしてなかなか遊びに連れて行ったり、一緒になって遊ぶということがさぼりがちになります。土日の2日間休みがあるので、遊ぶのは日曜日でいいだろうと思ってしまい、土曜日はだらだらしてしまうことがよくあります。先



日、土曜日にだらけていたところ、子供から全然一緒に遊んでくれないと言われました。え？いつも遊んでるじゃん！！だけど子供にはだらだらしてばかりに見えてたのですね。それから反省し、疲れていても極力子供と戯れる時間を作っています。皆様は、何か徹底して行っていることはありますか？私の今年の目標は「凡事徹底」です。本年も宜しくお願い致します！！

価値観 ～ 24時間戦えますか？～

大石 耕平（東京オフィス）



「働き方改革」や「ライフワークバランス」が声高になった2018年でした。かつては「長い時間よく働く」というのは日本人の美德とされてきました（当時は小学生だったのでよくわかりませんが）。世相を反映するフレーズとしても、高度成長時代の「モーレツ主義」、80年代の栄養ドリンクCMに代表される「24時間戦えますか」は、その時代の働き方を表していると思います。当時のCMではリゲインの「24時間戦えますか」の他に、高田純次がCMに出演していたグロンサンの「5時から男」が共に流行語になっていました。まだ小学生だった私も鮮明に記憶に残っています。平成が終わる2019年の今日は、30年前とは市場感も価値観も考え方も大きく変わってきたと感じます。2019年の今、「24時間働けますか？」なんて言ったら恐らく笑いものにされるか訴えられるかのどちらかでしょう。それほど価値観とは曖昧で変わりやすいものなのだ実感させられます。さて話は変わりますが、今期のプリキュアもそろそろ最終回に向かってラストスパートです。今期のプリキュアのすごいところは、「出産」「育児」「仕事・働き方」「LGBT」など現代社会に深く切り込んだ設定にあると思います。



そこには変化し続ける価値観への葛藤と、多様化する家族観をより直接的な言葉で触れることが多く、回を重ねるに連れて話の密度からさまざまな事柄に対しネットでは反響や意見が出ています。今になって思えば昨年1月に3歳になった娘と見はじめたプリキュア（アニメ）に、こんなにも考えさせられるなんて思ってもいませんでした。しかし毎週日曜日の朝に娘を膝の上に乗せて一緒に過ごすことができた時間は、唯一不変な時間であったことは間違いのないと思います。

新しいことにチャレンジ

三浦 正之（東京オフィス）



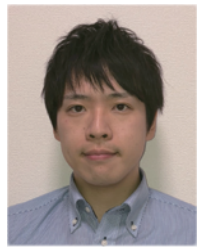
この場を借りて改めてご挨拶をさせていただきます。2018年9月より入社いたしました三浦です。今年の3月で35歳になります。家族は妻の久美子、7歳の双子の息子の佳大（けいた）、英大（えいた）の4人家族です。去年は子供たちも幼稚園から小学生に進学し新しい環境で勉強や友達作りなど様々なことにチャレンジしております。私自身も転職し森松で製品・加工についての勉強、取引先様や仕入れ先様などとの良好な関係づくりにチャレンジしております。驚くほど早いスピードで色々なことを吸収・成長していく子供たちに負けまいと日々精進してまいりますので、皆様お力添えのほど、何卒よろしく



お願いいたします。また、2019年は仕事以外では「ゴルフ」にも挑戦したいと考えております。早速、義理の父にゴルフセットを貰い、動きやすい服装、走りやすいシューズを買い、練習場へ行ってきました。実際にやってみるとテレビやマンガで見てきたものと違い、あまりの難しさに驚愕しました。早く人並みにプレーしたいと思いつつ練習場の床を叩いている自分に恥ずかしさを感じながらもまだまだ始めたばかりですので、諦めずにチャレンジしていきたいと思っております。こんな私ではございますが、皆様今後ともよろしく

初詣

間部 将大（森松産業）



2019年の初詣は愛知県岡崎市にある一畑山薬師寺へお参りに行きました。勾配のきつい坂を車で登った山頂に広大な敷地を持つお寺があります。ピークである三が日を避けて訪れたこともあり、これといった渋滞もなく到着しました。あまり混んでいなさそうだったのでまずはご祈祷へ、受付の際に3つまで願いを決めることができます。何にするか迷いましたが、身体健全、交通安全、家内安全とかなりオーソドックスなものに決めました。ご祈祷は30分毎に団体祈祷という形式で行われます。本堂でのご祈祷が終わると続いて、不動明王殿にて持ち物（鍵や携帯電話など）を清めてもらい終了となります。私はやりませんでした。車のご祈祷を申し込んだ方はこの後にあるそうです。その後は境内を回って、お守りを購入したり、おみくじを引いたりしました。境内の中央には世界最大の大香炉鉢があり、煙を浴びる多くの人で賑わっていました。また、お寺の南側には梵鐘が見えたので鳴らしに行きます。立札には「この世は撞いて撞かれて共存共栄、鐘をついて運がつく」となによりや意味深な言葉が書かれています。撞くだけで運がもらえるというのに破格の一鐘100円です。ありがたい。最



後に2012年に造られたという涅槃像（寝仏）を拝みに行きました。全長は薬師にちなんで8.94m（やくし）とのこと。約三万枚もの金箔に身を包んでおりとても神々しいです、見ただけでなんともご利益がありそう。拝観は無料ですが胎内を見学する場合は有料です。一畑山薬師寺はパワースポットとしても有名ですので、初詣の時期以外にも多くの方が参拝に訪れます。良縁成就や商売繁盛など何かパワーを貰いたい時などイチオシですので是非!!

久しぶりに...

藤木 方子（森松産業）



約15年ぶりぐらいになるでしょうか、先月主人、娘夫婦と東京ディズニーランド、ディズニーシーへ行って来ました。初日はゆったりと出発しお昼くらいにランドに着きました。予報は外れあいにくの雨でしたが（雨は初!）、合羽を着てパークを散策するのはなんとも不思議な感じがして楽しかったです。35周年イベント“Happiest Celebration”とクリスマスの時期ということもあり、カップルはもちろんのこと家族連れも多く園内はものすごい人でした。まずは昨年リニューアルされたばかりのイツアスモールワールドに乗ることになり60分ほど並びました。新しめのディズニーキャラクターも色々追加されており、可愛らしいキャラクターたちを眺めているうちに約10分間の船旅はあっという間に終わってしまいました。その後はチャイナボイジャー（中華麺）にて遅めのランチを取り、グローブシェイプポークパオ（ミッキーのグローブ型サンド）やティポトルタ（チュロスと間違えて...）などテイクアウトも食べながらディズニーグルメを堪能いたしました。アトラクションをいくつか乗った後、夜はパレードを観てホテルへ。2日目は朝早くからシーへ並び、開園を待ちます。天候も回復し寒さもあまり気になりません。開園後はダッフィーと写真を撮るためすぐにそちらに向かいましたが、朝一番で160分待ち...私と主人はとてそんな長い時間は並べませんので別行動となりました。その間お土産を見たり、また、シーではアルコールも提供されているため、お酒など楽しみながら娘たちを待ちます。合流した後はアトラクションはもちろんのこと、ショーも観たりしてたいへん幸せな時間を過ごすことができました。久しぶりのディズニー、またいつか行けたらと思います。

